

図書館だより

武雄高校図書館 図書指導部

令和4年12月22日発行



冷え込みも厳しくなり、本格的な冬の到来です。

図書館ではストーブを用意し、温かくして朝から開館しております。

忙しい日々を送っていると思いますが、そんな日々で癒しの時間をお届けするために1年生の図書委員が、心温まる本を紹介してくれていますので、気になる本がありましたら図書館まで足を運んでください😊

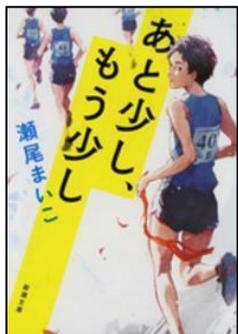
1年生 図書委員による☆ 冬休みに読んでもらいたい本の紹介

*これら紹介する2冊の本は、図書館に置いてありますので気になる本がありましたら図書館までどうぞ😊

「あと少し、もう少し」

著/瀬尾 まいこ

(新潮文庫)



陸上部の名物顧問が異動となり、代わりにやってきたのは頼りない美術教師の上原。

部長の柁井は、中学最後の駅伝大会に向けてメンバーを募り練習するが…。

元いじめられっ子の設楽、不良の大田、頼みを断れないジロー、プライドの高い渡部、後輩の俊介。寄せ集めの6人は県大会出場を目指して、襷をつなく。あと少し、もう少し、みんなと走りたい。涙が止まらない青春小説。

【おすすめの理由】

それぞれの生徒に対して上原先生が時折放つ、教師としての鋭い言葉。

誰かの気持ちが折れそうになったとき、すかさず誰かが手を差し伸べる…。先生や家族・チームメートは、自分が思っている以上に自分のことを考えてくれているのではないかと、理解してくれているのではないかと。

自分は1人のようでも、決して1人ではない。この冬に読むべき一冊！

【あらすじ】



「いつか、眠りにつく日」

著/いぬじゅん (スターツ出版)



【あらすじ】

高2の女の子・蛍は修学旅行の途中、交通事故に遭い、命を落としてしまう。そして、案内人・クロが現れ、この世に残した未練を3つ解消しなければ、成仏できないと蛍に告げる。

蛍は、未練のひとつが5年間片思いしている蓮に告白することだと気づいていた。だが、蓮を前にしてどうしても思いを伝えられない…。蛍の決意の先にあった秘密とは？ 予想外のラストに涙が出る—。

【おすすめの理由】

作者は、「生と死」に関する本を中心に書いている作家さんで、この本もその一つです。この本を通して、人の温かみ、生きることの尊さを知ることができる一冊です！

先月の図書館だよりでも紹介しています前期二次試験の過去問、《現代文》を一部紹介します。興味のある人は、一度目を通してみませんか？

『手の倫理』伊藤亜紗【著】

*2022年度 九州大学(文学部・教育学部・法学部・経済学部)現代文で出題



人が人にさわる／ふれるとき、そこにはどんな交流が生まれるのか。介助、教育、スポーツ、看取りなどさまざまな関わりの中で、コミュニケーションは情報伝達の領域を超えて相互的に豊かに深まる。ときに侵襲的、一方向的な「さわる」から、意志や衝動の確認、共鳴・信頼を生み出す沃野への通路となる「ふれる」へ。

相手を知るために伸ばされる手は、表面から内部へと浸透しつつ、相手との境界、自分の輪郭を曖昧にし、新たな関係性を呼び覚ます。目ではなく触覚がひらく、人間同士の関係の創造的可能性とは。



新刊図書案内



2021年度 琉球大学(教育学部)現代文で出題

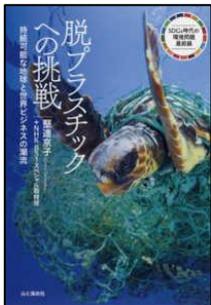
『地球にちりばめられて』 多和田 葉子【著】



留学中に故郷の島国が消滅してしまった女性 Hiruko は、大陸で生き抜くため、独自の言語“パンスカ”をつくり出した。

テレビに出演した Hiruko を観て、言語学を研究する青年クヌートは放送局に電話をかける。意気投合したふたりは、世界のどこかにいるはずの、自分と同じ母語を話す者を探す旅に出る。

『脱プラスチックへの挑戦—持続可能な地球と世界ビジネスの潮流』 堅達 京子/NHK取材班【著】



2050年、海の中のプラスチックごみの量は魚の量を超える！
空気や水、食べ物にもマイクロプラスチックが含まれ、その脅威は私たちの暮らしに迫りくる。石油という化石燃料から作られるプラスチックは、大量生産・大量消費の現代文明の象徴だった。いま、私たちの文明そのものを、急速に“循環型”で“脱炭素”の経済に作り変えていかなければ、温暖化が加速し“地球の限界”に達すると科学者は警告する。気候危機の回避に必要なのは、パラダイムシフト。日本企業は、この大転換をビジネスチャンスに変えられるのか。そして私たちにできることは？

『カラスの教科書』 松原 始【著】



ゴミを漁り、カアカアとうるさがられるカラス。
走る車にクルマの殻を割らせ、マヨネーズを好む。賢いと言われながらとかく忌み嫌われがちな真っ黒けの鳥の生態をつぶさに観察すると、驚くことばかり。日々、カラスを追いかける気鋭の動物行動学者がこの愛すべき存在に迫る、目からウロコのカラスの入門書！

0分類【知識】

『認知心理学者が教える最適の学習法』

(ヤナ・ワインスタイン/メーガン・スメラック/オリバー・カヴィグリオリ/山田祐樹【監修】・岡崎善弘【訳】)

『100年無敵の勉強法—何のために学ぶのか？』
(鎌田 浩毅)

1分類【哲学・中国思考・人生訓】

『現実を解きほぐすための哲学』(小手川正二郎)

『100の思考実験—あなたはどこまで考えられるか』(ジュリアン・バジーニ)

『物語として読む全訳論語決定版』(山田史生)

『限りある時間の使い方』(オリバー・バークマン)

『10代のための座右の銘—今を変える 未来を変える』(大泉書店編集部)

3分類【論文集・社会教育】

『人物に学ぶ』(北尾 吉孝)

『自閉症スペクトラム障害のある人が才能をいかすための人間関係10のルール』(テンプル・グランディン/ジョン・バロン)

『大学生 大学生活の適応が気になる学生を支える』
(松本真理子/永田雅子/野邑健二【監修】/安田道子/鈴木健一【編纂】)

『中学生・高校生 学習・行動が気になる生徒を支える』
(松本真理子/永田雅子/野邑健二【監修】/酒井 貴庸【編纂】)

★お知らせ★



冬休み期間中(12/23~1/6)は、16:35で閉館となります m(_)_m

4分類【物理学・生命論・動物学・医学】

『始まりから知ると面白い物理学の授業—世界は物理法則で成り立っている イラスト図解で超わかる』
(左巻健男)

『生命とは何か—物理的にみた生細胞』(シュレインガー/岡 小天/鎮目恭夫)

『カラスは賢い、ハトは頭が悪い、サメは狂暴、イルカは温厚って本当か？』(松原 始)

『がん-4000年の歴史(上)』(シッダータ・ムカジー)

『胎児の世界—人類の生命記憶』(三木成夫)

5分類【環境工学】

『これってホントにエコなの？ 日常生活のあちこちで遭遇する“エコ”のジレンマを解決』
(ジョージナ・パウエル)

『脱炭素革命への挑戦—世界の潮流と日本の課題』
(堅達京子/NHK BS1スペシャル取材班)

8分類【言語】

『知ってるつもりで間違える慣用句100』
(田村秀行)

9分類【小説】

『月の立つ林で』(青山美智子)

『光のところにいてね』(一穂ミチ) 第168回
直木賞候補作品

『機械仕掛けの太陽』(知念 実希人)

『#真相をお話します』(結城 真一郎)

『葉と嘘の季節』(米澤 穂信)

(図書委員シリーズ) 待望の続編！青春ミステリ長編。